

# BB通信

## 8月 vol.10



×



8月でチームを引っ張ってきた3年生が中学野球の一区切りを終えました。9月からは2年生が中心の活動がスタートと同時に第2回フューチャーズリーグが開幕します。様々な選手に出場機会があるリーグ戦です。選手にはチャレンジを忘れずにのびのびとプレーしてほしいと思います。選手の活躍を温かく見守っていきましょう。

### 「徹底した攻撃姿勢」

コーチ 阪長 友仁

2015年のアメリカ遠征、私はドミニカ共和国からLAへ移動して監督・選手たちと合流し、初めて参加させていただきました。

今年は初の試みとして、現地のチームが参加する大会にエントリー、自身は2年生が参加したU14のカテゴリの試合に同行しました。

予選リーグの最終回2アウトからの逆転サヨナラ勝利、準決勝のタイブレークにもつれ込む大接戦、自分たちよりはるかに大きな選手を相手にビッグの選手たちがいつもにも増して楽しみながら力を発揮してくれました。

3年生が参加したU16も含めて、とにかくどの対戦チームも超積極的な打撃姿勢が見受けられました。ストライクゾーン付近のストレート系の投球には3ボール0ストライクを除いて必ずと言っていいほどバットを振ってきます。そのため、ビッグの投手が投げるストライクに見逃しというものはほとんどありませんでした。

インサイドアウトのスイングで力強く振るため、初球から振っていても打ち損じがフェアゾーンに転がらずファールになるか空振りになり、もう一度打ち直すことができる、たとえ2ストライクに追い込まれようとも三振も内野ゴロも同じアウト、ならば当てにいてゴロを転がすよりも三振を恐れず思い切ってスイングしてヒットを狙いにいく、そしてその結果がたとえ良くなくても指導者は決してネガティブな声をかけないということがものすごく印象的でした。

すごいのはお互いそれをわかっているでどんどんストレートをストライクゾーンに投げ込むこと。ビッグの選手も良いバッティングをたくさんしましたが、相手チームのそういった姿勢に、こちらの力をどんどん引き出してもらっている印象でした。そして、お互いが相手の力を引き出しあい、お互いのレベルがどんどん上がっていくことを試合中に実感することができました。日本で同様の取り組み（ストレート系の球に積極的にスイングする）をしたら変化球ばかり投げられて、お互いの良いところが全然引き出しあえないのではないか・・・、残念ながら現状そう感じてしまいます。

しかし、昨年から開催しているフューチャーズリーグではまさにそれを実践できる場があります。投手には投球制限に加えて変化球制限もあるため、ストレート系の投球に積極的にスイングできる環境がそこにはあります。アメリカだから、ドミニカ共和国だからできるのではなく、身体能力の違いでもなく、日本でも大人が環境さえ準備できれば子供たちはもっともっと成長できる。それを実践していく場所が我々にはある。堺ビッグボーイズはもちろん、参加いただくチームにもご理解いただき、子供たちがより成長できる環境作りには貢献していきたいと思っています。

## 「チームワーク～仲間を思いやる気持ち～」

コーチ 久富 恵介

新チームが始動するにあたり、「チームワーク」に重きを置いて活動していきたいと思います。野球の試合は9名で行うスポーツですが、9名だけでは試合は成り立ちません。ベンチワークはもちろん、練習中のサポート、チームに関わる全ての人で戦うスポーツだと私は考えています。

今回のLA遠征でこんなことがありました。2日目、朝食の時間に3年生数名、2年生数名が寝坊してきました。私は時差ボケもあるので仕方がないと思っていたのですが、時間通りに来て朝食を食べている選手が誰も動こうとしません。「僕はちゃんと時間に間に合っているのだから関係ない」という感じです。寝坊した選手には当然注意をするつもりでしたが、時間通りに来ている選手達を見ていると悲しい気持ちになりました。

常にミスはみんなでカバーしようと選手に話していますが、私生活に繋がっていいと感じました。私生活の姿が写し鏡となってグラウンド上に出てきます。スマホ・ゲーム・PCの普及で子ども達が向き合う時間は人よりも機械の方が長くなっていますが、人と人の繋がり、本当の意味でのチームワークを選手に語りかけていこうと思います。馴れ合いではなく、注意する時は選手間でも注意をし合う、本当に困っている時はそつと手を差し伸べることができるチームにしていきます。

自分のことよりも仲間のことを思いやり行動する、野球が上手くなることよりもよっぽど重要なことです。そういう行動が将来選手達の財産になっていくと思います。

## 「塾に行っても成績が伸びない!？」

コーチ 岩井 健一

BB塾が開講してから、9月で1年になります。入塾して得点が倍になった、100点近く点数が上がった選手、変わらない選手、様々な選手がいます。私はまだまだ塾の講師として未熟ですが、少しずつ、成績が伸びる選手と伸びない選手の違いがわかってきたような気がします。その違いは、「塾で出た宿題をどれだけしっかりやってくるか」の差です。すごく単純なことですが、これを続けられるか続けられないかが大きな差となって表れてきます。

塾に通っている選手は、学校の成績を上げたくて塾に通っているはずですが、学校の成績を上げるためには、「自分のわからない問題を知る⇒それを理解して、一人でできるようになるまで問題を繰り返し解く」ということが大切です。これがしっかりできれば、まず間違いなく成績は上がります。しかし、自分自身でペースを決めて、これができる中学生は非常に少ないです。結果的に、テスト直前にあわてて全教科の勉強をするという状況になります…。なので、そうならないようにペースメーカーとして塾を利用し、そこで出た課題にしっかりと取り組む。それが塾の最大の役割ではないかと思います。それができれば、塾はそれぞれに合ったところを選べばいいですし、そしてそれができないのであれば、結局はどここの塾に行っても成績は伸びません。そのような考えから、私は選手の試験直前の取り組み、点数を見るのではなく、そこまでの取り組み、普段の学習の様子を観察し選手の学習をサポートすることを大切にしています。

いつ、何が出るかがある程度わかっているのが学校の試験です。それに対して、野球はどんな状況でどんなピッチャーがどんな球を投げてるのかが分からない競技です。どんなに優秀なプロのバッターでも、打率は3割代(テストで言えば30点代)という競技です。そんな野球という難しいスポーツに挑戦しているのだから、野球をしている選手は、中学校の試験ぐらいやればできるはず!と私は選手に話しています。野球だけでなく、勉強の方も、結果も大切ではありますが、そこに至るまでのプロセスを暖かく見守っていただければと思います。

## 2015年4月 堺BB小学部設立

### 小・中一貫指導開始

子供達の可能性を最大限引き出す!  
堺ビッグボーイズから世界に羽ばたく人材を輩出します!

**皆様、広報にご協力下さい。**

詳しくは、お気軽に久富コーチまで!!

## BB塾

## 無料体験実施中!

集団・個別授業：5000円/月～  
場所：プロスペクト株式会社3F  
お問い合わせ：TEL:070-1218-8753  
詳しくは岩井コーチまで!

